

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

ナショナルデータベースを用いた実態把握に関する検討

研究分担者 奥村 泰之 公益財団法人 東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野
心の健康プロジェクト 主席研究員

研究要旨 認知症を有する人は、痛みの訴えを十分にできないことから、疼痛管理をする必要がある場合であっても、オピオイド等の鎮痛薬が十分に処方されていない可能性がある。本研究では、メディカル・データ・ビジョン株式会社が保有している DPC データベース（366 病院を含む）から、匿名加工情報の提供を受けた。適格基準は、肺がんに対する手術（腹腔鏡手術を含む）、大腸がんに対する Miles 手術（腹腔鏡手術を含む）、あるいは大腿骨頭置換術を受けた入院、入院日は 2014 年 4 月 1 日から、退院日は 2018 年 3 月 31 日までの入院、入院時年齢は 65 歳以上、とした。適格基準を満たす入院は、32,411 件であった。認知症の割合は、術式ごとに大きく異なっていた。肺悪性腫瘍手術では 6.4%、胸腔鏡下・肺悪性腫瘍手術では 3.5%、Miles 手術では 6.2%、胸腔鏡下・Miles 手術では 5.1%、大腿骨頭置換術では 47.8% であった。主要評価項目と副次評価項目については集計中である。今後の研究により、認知症を有している患者において、術後の疼痛管理が不十分であることが明らかになる可能性がある。

A. 研究目的

認知症を有する人は、痛みの訴えを十分にできないことから、疼痛管理をする必要がある場合であっても、オピオイド等の鎮痛薬が十分に処方されていない可能性がある（Shen et al, 2018）。しかし、これまでの研究では、オピオイド等の鎮痛薬の処方状況は不透明であった。

B. 研究方法

メディカル・データ・ビジョン株式会社（MDV）は、DPC 対象病院から、DPC 調査データとレセプトデータを収集している。本研究では、2018 年 11 月 15 日に、MDV が保有している DPC データベース（366 病院を含む）から、匿名加工情報の提供を受けた。抽出定義は、2013 年 4 月から 2018 年 3 月の間に退院した患者、対象期間中の最終受診月時点の年齢が 65 歳以上の患者、対象期間中に、医療資源を最も投入した傷病名として、肺の悪性腫瘍（040040）、直腸肛門の悪性腫瘍（060040）、あるいは股関節・大腿近位の骨折（160800）を有する患者、とした。

本研究における適格基準は、肺がんに対する手術（腹腔鏡手術を含む）、大腸がんに対する Miles 手術（腹腔鏡手術を含む）、あるいは大腿骨頭置換術を受けた入院、入院日は 2014 年 4 月 1 日から、退院日は 2018 年 3 月 31 日までの入院、入院時年齢は 65 歳以上、とした。

曝露として、認知症の診断名を有する、抗認知症薬の処方を受ける、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準が 1 以上を、認知症を有する患者とみなす。

主要評価項目は、術後在院日数に占める術後鎮痛薬（オピオイド、NSAIDs、アセトアミノフェン）の処方日数の割合とする。副次評価項目は、術後在院日数に占める術後抗精神病薬の処方日数とする。

（倫理面への配慮）

匿名加工情報であるため、患者同意は不可能である。また、倫理審査委員会の規定により、当該情報を活用した研究に関して、倫理審査の付議を要さない。

C. 研究結果

表: 主要評価項目と副次評価項目の結果

術式	認知症	N	術後在院日数
肺悪性腫瘍手術	なし	2,322	11.0
肺悪性腫瘍手術	あり	159	11.9
胸腔鏡下・肺悪性腫瘍手術	なし	14,271	9.1
胸腔鏡下・肺悪性腫瘍手術	あり	513	9.7
Miles 手術	なし	1,984	15.3
Miles 手術	あり	131	15.7
胸腔鏡下・Miles 手術	なし	4,886	13.1
胸腔鏡下・Miles 手術	あり	262	14.0
大腿骨頭置換術	なし	4,117	17.0
大腿骨頭置換術	あり	3,766	16.6

上表に、32,411 件の入院に関する集計結果を示す。認知症の割合は、術式ごとに大きく異なっていた。肺悪性腫瘍手術では 6.4%、胸腔鏡下・肺悪性腫瘍手術では 3.5%、Miles 手術では 6.2%、胸腔鏡下・Miles 手術では 5.1%、大腿骨頭置換術では 47.8%であった。

主要評価項目と副次評価項目については集計中である。

D. 考察

本年度は、データの入手と固定化に研究時間を要した。今後、本研究により、認知症の有無ごとに、入院中のオピオイド等の鎮痛薬の処方状況が明らかになる。認知症を有している患者において、術後の疼痛管理が不十分であることが明らかになる可能性がある。

E. 結論

今後の研究により、認知症を有している患者において、術後の疼痛管理が不十分であることが明らかになる可能性がある。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし。